

# 令和8年度 非認知能力育成に向けたアプリ 導入仕様書

## 1. 目的

児童生徒の非認知能力を客観的なデータとして可視化し、その育成に向けた具体的な手立てを明確にすることで、児童生徒一人ひとりの個性を活かした主体的な学びと成長を支援することを目的とする。

## 2. 概要

案件名:非認知能力育成に向けたアプリ

履行期間:契約締結日 ~ 2027年3月31日

対象:市立小・中学校(9校)

児童 638人(4~6年生)

生徒 616人(1~3年生)

教職員 235人(管理)

## 3. 機能要件(必須要件)

### (1)アセスメント機能

#### ・対象と実施環境

小学校4年生以上を対象とし、WEBブラウザ経由で利用可能であること。

#### ・設問設計

非認知能力、自己肯定感、心理的安全性を測定可能な設問体系であること。設問数は学校現場の実態に合わせて調整可能であること。

#### ・受験負荷

児童生徒の負担を考慮し、1回あたり10分程度で完結する設計であること。

#### ・専門的根拠

設問および測定指標は、教育学や心理学の知見に基づき、専門家等の監修を受けて設計されていること。

### (2)指導補助・分析機能

#### ・リアルタイム集計

受験結果が即時にデータ化され、管理画面で確認可能であること。

#### ・帳票出力

レポートデータを個人単位および学年・学校単位で、容易に出力可能であること。

#### ・次の項目を数値として可視化(可視化指標)できること。

ア.生徒の心理的安全性および自己肯定感(詳細因子別含む)。

イ.対人関係性(教員・友人・保護者、クラス・部活等のコミュニティ内)。

ウ.不登校予兆や学級の状態。

- ・カリキュラムマネジメント支援

探究学習や学校行事など、教育活動ごとの影響度を測定・振り返りに活用できること。

### (3) 育成・フォローアップ機能

- ・定期的アセスメント

実施回数に制限がなく、学校行事や学期ごと等の定期実施による生徒の能力変容(縦断的分析)を可視化できること。

- ・教材提供

可視化された課題に対し、教員が活用可能な「非認知能力育成アプローチワーク」や「フォローアップ教材」が利用可能であること。

### 4. 運用・保守・サポート要件

- ・伴走型支援体制等

教職員への説明会の実施やデータ分析の仕方や活用方法について各校から問合せがあった時は、適切に助言を行い、年度末には活用状況を振り返るアンケートやフィードバック等の運用支援を行うこと。

- ・セキュリティ

児童生徒の機微な心理データを取り扱うため、強固なアクセス権限管理と情報保護体制が整備されていること。

### 5. プロポーザルにおける提案要求項目(評価のポイント)

ツールの導入それ自体を目的とせず、以下の点を重視して評価を行う。

- ・データ活用の具体性

結果を個別の生徒指導や学級経営にどのようなフローで落とし込む提案ができるか。

- ・教員の負担軽減

データの可視化によって、これまで教員が時間をかけていた「生徒の状況把握」や「面談準備」をどの程度効率化できるか。

- ・信頼性と継続性

自治体での導入実績、および学校現場のニーズに応じた継続的なシステム改善の実績。

- ・監修体制の信頼性

設問の妥当性・信頼性を担保する学術的背景が明確であるか。